

西多摩医師会報

第224号 平成3年8月



日光キスゲ 山田正哉

目 次

	頁		頁
1. 学術		雑記 同好医会について	
無症候性原発性胆汁性肝硬変の 肝外門脈シャント		山田正哉 …	13
	瀬在秀一 …	2	
2. 理事会報告 その1	広報部 …	6	
その2	広報部 …	9	
3. 文芸随筆その他諸事百般			
銷夏の心境	小泉新策 …	10	
青梅特快	米山秀雄 …	10	
雑草と芝刈り	植田 稔 …	11	
		4. 生涯現役	
		回想録 その(七)	小泉新策 … 15
		5. ブロックだより	真鍋 勉 … 16
		6. 医師会日誌	…………… 17
		7. お知らせ	…………… 18
		8. 表紙のことば	山田正哉 … 19
		9. あとがき	小机敏昭 … 19

学 術

無症候性原発性胆汁性肝硬変の 肝外門脈シャント

瀬 在 秀 一

はじめに)

原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の診断は IgM や抗ミトコンドリア抗体 (AMA) 測定などにより、比較的容易になされるようになり、無症候期 (a-PBC) に発見されるケースが多くなっている。一方、食道静脈瘤や肝性脳症などの門脈圧亢進症症状を呈し、そのため PBC が早期に診断されたとする報告も散見される^{1~4)}。さらに、超音波検査の進歩により、門脈系などの深部血管血流量も非侵襲的に測定し得るようになった。われわれは肝生検による確定診断のため入院した a-PBC 症例の超音波検査で側副血行路を認めた症例があったため、以後 a-PBC 症例に経皮経肝門脈造影 (PTP) を行ない門脈血行動態について検討した。

対象と方法)

対象は1988年4月以降、1989年10月まで当院外来で a-PBC を疑われ、その精査のため入院した以下の5症例である。

症例1: 55才女、健診で肝機能異常を指摘され当院受診。GOT 85KU、GPT 76KU、LDH 263IU、Al-P 42.1KAU、 γ -GTP 212U、AMA(+) 1,280X、IgM 2,050mg/dl。

症例2: 51才女、近医より胆嚢ポリープ精査依頼で当院受診。GOT 33、GPT 27、LDH 261、Al-P 27.2、 γ -GTP 117、LAP 454mu/ml、AMA(+) 80X、IgM 1,003。

症例3: 51才男、健診で肝機能異常を指摘され当院受診。GOT 33、GPT 28、LDH 326、Al-P 10.6、 γ -GTP 181、LAP 310、AMA(+) 160X、IgM 492。

症例4: 45才女、健診で γ -GTPの高値を指摘され当院受診したが、他の肝機能検査も増悪したため入院。GOT 45、GPT 62、LDH 261、Al-P 12.4、 γ -GTP 126、LAP 336、IgM 606、AMA(+) 640X。

症例5: 54才女、健診で肝障害指摘され精査目的で入院。GOT 49、GPT 38、LDH 362、Al-P 18.5、 γ -GTP 114、LAP 462、IgM 440、AMA(+) 120X。

全例黄疸、蚤痒感などはなく、無症状であり食道静脈瘤、脾腫など認めなかった。a-PBCの診断はRol1等の基準⁵⁾に従った。PTPにより、肝門部で2回門脈圧 (PVP) を測定しその平均を PVP 値とし、次に全例に5ml/sec、総量30mlの同一条件で脾静脈、上腸間膜静脈より造影を行い、肝外シャント、肝内門脈像を検討した。症例5のみ造影効果を鮮明にするためにさらに4ml/sec、20mlで側副血行路である左胃静脈より造影した。肝生検は全例針生検 (Trucut^R) で行ない、病期分類はScheuerの基準⁶⁾に従った。門脈血流量 (PVf) は超音波パルスドップラー法 (ALOKA SSD-650、ドップラーユニット) により早朝空腹時に行ない、正常対照群として当院人間ドック患者 (n=110、平均51才、男72、女38) と比較した。

結 果)

1) 門脈血行動態

症例1: Fig. 1の PTP像では胃腎シャントを認めPVP 23cmH₂O、PVf 615ml/min。

症例2: 胃腎シャント、後腹膜シャントを認め (Fig. 2)、PVP 6、PVf 470。

症例3: 脾腎シャントを認め (Fig. 3)、PVP 9、PVf 890。

症例4: シャントを認めず (Fig. 4)。PVP 5、PVf 714。

症例5: 胃腎シャント (Fig. 5)、PVP 5、PVf 580。

以上5例中4例に側副血行路を認めたが、肝内門脈像は6次分枝まで整であった。PVP は 9.6 ± 7.7 (n=5) で1例を除き正常で

あり、PVf は 654 ± 158 と正常対照群 685 ± 201 と比較して差はなかった。

2) 病理所見

症例1 (Fig. 6) グ鞘に限界板を越える fibrosis 著しく、リンパ球を主体とする細胞浸潤著明で肉芽腫、piecemeal necrosis を形成。9 個のグ鞘のうち 1 箇所だけに小葉間胆管が見られるだけで門脈は狭小化著明であった。肝細胞は腫大変性強く、配列の乱れあり、Scheuer 2 期と診断された (HE 染色)。

症例2 : (Fig. 7) 7 個のグ鞘にリンパ球を主体とする軽度細胞浸潤あり。小葉間胆管のつぶれはあるものの、CNSDC (chronic nonsuppurative destructive cholangitis) の所見はなく、明瞭な門脈の狭小化を認めず、肝細胞索は保たれていた。Scheuer 分類は不明 (Masson 染色)。

症例3 : (Fig. 8) 12 個のグ鞘のうち 3 個にリンパ球を主体とする細胞浸潤がみられ、CNSDC を 2 箇所認め、門脈の狭小化を認める。肝細胞索は保たれており、Scheuer の 1 期 (Masson 染色)。

症例4 : (Fig. 9) 18 個のグ鞘中にリンパ球を主体とする細胞浸潤あり。グ鞘の半数に小葉間胆管の消失、肉芽腫を認め、一部硝子化癥痕あり、門脈の狭小化が著明。肝細胞索は比較的保たれており、Scheuer の 2-3 期 (Masson 染色)。

症例5 は採取された組織上、グ鞘が 1 個しか含まれず判定不能であった。

考 察)

a-PBC からの症候性 PBC への移行に関する報告は多数⁷⁻⁸⁾あり、その移行率は様々であり、両病態の連続性についても議論のあるところである。両者の共通の所見として門脈圧亢進症があげられ、a-PBC においても食道静脈瘤破裂や肝性脳症を初発とした症例報告が散見される¹⁾。

門脈圧は従来より backward theory, forward theory に代表されるように門脈血流量、肝内血管抵抗により規定される。その意味では今回の症例は門脈血流量は全例正常に維持されており、4 例の門脈圧は正常であ

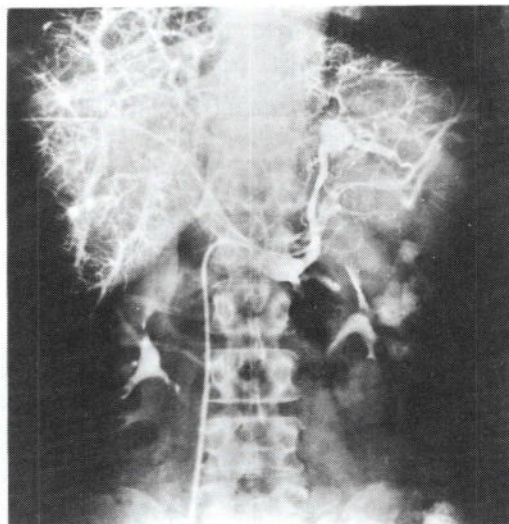


Fig.1 By injecting a contrast medium into the splenic vein, the portovenous connection from the short gastric vein to left renal vein is revealed.

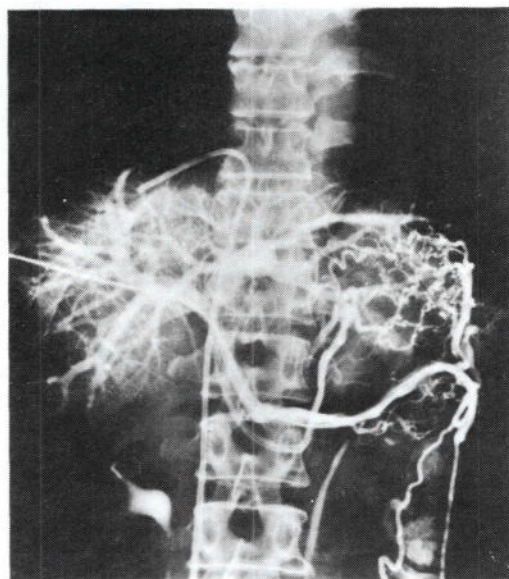


Fig.2 By injecting a contrast medium into the splenic vein, there are revealed the portovenous connection from the short gastric vein to left renal vein and the retroperitoneal collateral vein.

ったが、病理学上評価し得た 4 例中 2 例に Presinusoidal block を示唆する病理所見が認められ、一方 1 例を除いて sinusoidal level での変化は乏しかった。そのため、わ

(4)

れわれの症例の中に idiopathic portal hypertension (IPH) 例の存在の可能性も考えられた。IPH の場合 PTP像の肝内門脈枝は3次分枝より問題とされており、その所見として門脈末梢枝のうねり、からまり状変化、肝緑との間の avascular area が指摘されているが⁹⁾、今回の症例では造影され得た6次分枝の levelまでは壁の不整は認められず、病学的門脈変化は7次分枝以下の変化と考

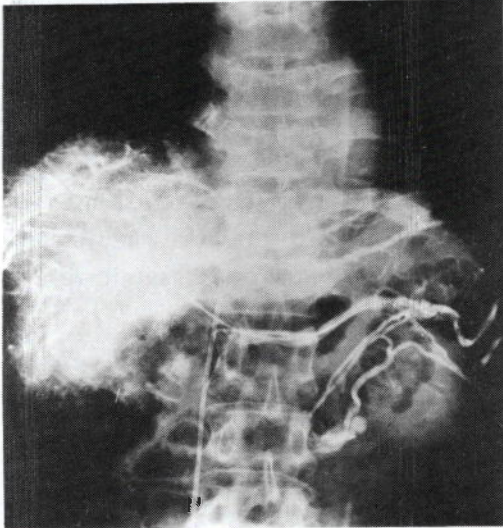


Fig. 3 The portovenous connection from the splenic vein to the left renal vein is revealed by injecting contrast medium into the splenic vein.

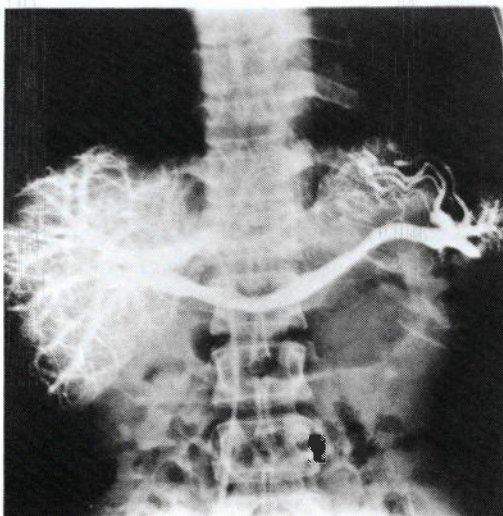


Fig. 4 No extrahepatic collateral vein is visualized by injecting a contrast medium.

えられた。さらに IPHに特徴的とされる繊維化、異所性門脈、門脈枝の潰れなどの所見はみられなかった。従来より PBCでは病変の主座が胆管系に向けられており、代表的な Scheuer 分類でも門脈系の記載はなく、逆に IPH では胆管系の記載は少ない。PBC の門脈系の検討の一つに、実験モデルとして変異

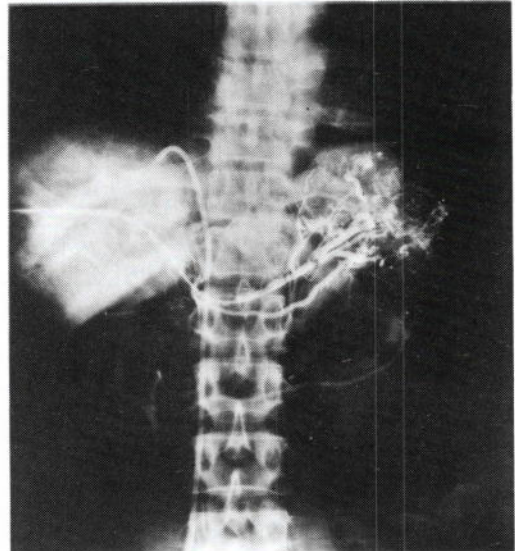


Fig. 5 The left gastric vein is filled with a contrast medium, draining toward the left renal vein.

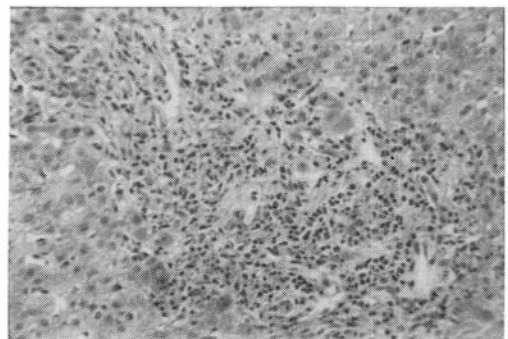


Fig. 6 Marked fibrosis destructing portal tract beyond the limiting plate and lymphocytic infiltration are recognized. Interlobule bile duct can be seen in the only one of nine available portal tract, and the remarkable narrowing of the portal veins is recognized. Hepatocytes are swollen and degenerative with irregular arrangement to be diagnosed as Scheuer 2.

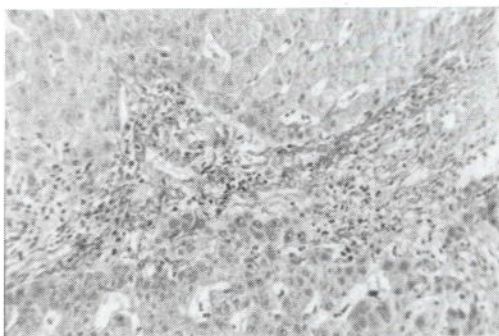


Fig. 7 Lymphocytic infiltration is mildly recognized in the seven available portal tract. There are no narrowing of the portal veins and hepatocytes are in the regular arrangement.

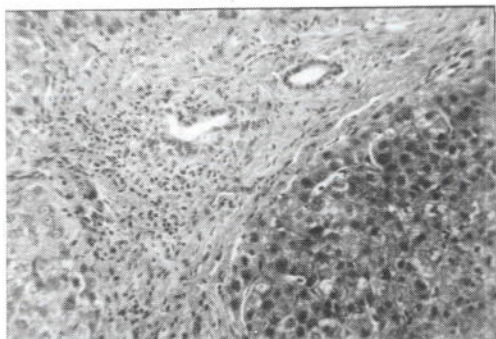


Fig. 8 The portal veins are markedly narrowed, and the chronic nonsuppurative destructive cholangitis is present to qualify Scheuer 1.

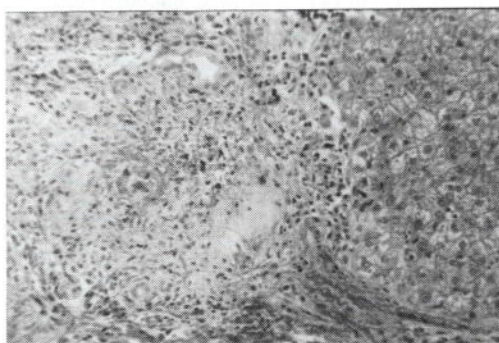


Fig. 9 Lymphocytic infiltration is recognized in these 18 portal tract and hepatocytes are in the regular arrangement; in half of them, there are remarkable narrowing of the portal veins, the destruction of interlobule bile duct, and granuloma; partial crystalization and scarring are revealed to qualify Scheuer 2-3.

化菌体成分の門脈注入が試みられており¹⁰⁾、病理学的に門脈の狭少化・硬化性変化³⁾、門脈周囲炎¹¹⁾、肉芽腫形成など門脈枝への圧迫による presinusoidal block¹²⁾、肝内に局在する regenerative nodular hyperplasia による影響⁴⁾が考察されている。さらに門脈血行動態と関連付けて a-PBC の病理学的変化を論じた報告も多くない。この点につき、Nakanuma⁴⁾らは食道静脈瘤の有無による病理所見の差について検討を加え、静脈瘤陽性例に門脈狭少化、硬化像が認められることを報告している。このような症例は胃腎シャントを呈し、将来胃静脈瘤に進展することが予想される。今回の症例 1 に相当すると考えられ、門脈圧亢進症を初発とする a-PBC の報告例に一致すると思われる。さらに残りの 4 症例は門脈圧が正常域に維持されているものの、3 例が外シャント形成、2 例に門脈の狭少化を認め一時的な門脈圧亢進の介在、先天性外シャントの存在が示唆された。先天性の portocaval shunt^{13, 14)}としては、それを示唆する巨大なシャント所見はなく否定的である。Navasa¹¹⁾肝静脈契入圧-肝静脈圧較差により 32 例中 5 例に圧較差正常 (6 mmHg 以下) の静脈瘤陽性例を報告しており、Ludwig 分類で全例 Stage 2 であったとしており、今回のわれわれの症例 3 と同様のものと思われる。さらに症例 4 では presinusoidal の変化が認められたにも関わらず外シャントがなく、症例 2 では presinusoidal な変化が認められなかったにも関わらず外シャントを認めたように種々のパターンを呈した。これは PBC の極く初期像をみているためであり、症例 1 の様な状況にいたるまでには一定の期間が必用なためと考えられた。

おわりに)

本研究で示したように PBC の極く初期段階で肝外門脈シャントが高率に発生する。従来より、PBC では胆管系に主眼が注がれる傾向にあったが、今後門脈系も注目すべきであろう。かつ、a-PBC 症例に遭遇した場合には、門亢症が隠されていることを念頭に診療に当たることが必要であろう。

文献)

- 1) Beswick DR, Klatskin G, Boyer JL: Asymptomatic primary biliary cirrhosis. A progress report on long-term follow-up and natural history. *Gastroenterol* 89:267-271, 1985
- 2) Zeegen R, Stansfeld AG, Dawson AM, et al: Bleeding oesophageal varices as the presenting feature in primary biliary cirrhosis. *Lancet* 2:9, 1969
- 3) Nakanuma Y, Ohta G, Kobayashi K, et al: Histological and histometric examination of the intrahepatic portal vein branches in primary biliary cirrhosis without regenerative nodules. *Am J Gastroenterol* 77:405-413, 1982
- 4) Nakanuma Y and Ohta G: Nodular hyperplasia of the liver in primary biliary cirrhosis of early histological stages. *Am J Gastroenterol* 82:8-10, 1987
- 5) Roll J, Boyer TL, Barry D, et al: The prognostic importance of clinical and histologic features in asymptomatic and symptomatic primary biliary cirrhosis. *N Eng J Med* 308:1-7, 1983
- 6) Scheur PJ: Primary biliary cirrhosis. *Proc R Soc Med* 60:1257-1260, 1967
- 7) Kapelman B, and Schaffner F: The natural history of primary biliary cirrhosis. *Semin Liver Dis* 1:273-281, 1981
- 8) Balasubramanian K, Grambsch PM, Wiesner RH, et al: Asymptomatic primary biliary cirrhosis (PBC): Patients have a diminished survival. *Hepatology* 7:1025, 1987
- 9) Futagawa S, Fukazawa M, Horisawa M, et al: Portographic liver changes in idiopathic noncirrhotic portal hypertension. *Am J Radiol* 134:917-923, 1980
- 10) Stemerowics R, Hopf U, Galanos C, et al: Are antimitochondrial antibodies in primary biliary cirrhosis induced by R(rough)-mutant of enterobacteriaceae?. *Lancet* 19:1166-1169, 1988
- 11) Navasa M, Pares A, Brugvera M, et al: Portal hypertension in primary biliary cirrhosis relationship with histological features. *J Hepatol* 5:292-298, 1987
- 12) Sherlock S: Primary biliary cirrhosis. In: Popper H, Schaffner F, eds. *Progress in liver disease*. Vol V, New York, Grune & Stratton
- 13) Reichardt W, Butzow GH, Erbe W: Anomalous venous connections involving the portal system. *Cardiovasc Radiol* 2:41-46, 1979
- 14) Kerlan RK, Sollenberger RD, Palubinskas AJ, et al: Portal-systemic encephalopathy due to congenital porto caval shunt. *Am J Radiol* 139:1013-1015, 1982

理事会報告

 — その1

平成3年6月25日 西多摩医師会館

議事録署名人 { 進藤理事
田代理事

議題

1. 報告事項

(1) 都医地区医師会長協議会報告

平 3. 6. 21 西村会長

1. 福井都医会長挨拶

- 都人事移動で衛生局長、衛生局技監、福祉局長の重要ポストに懇意な方が

つかれ、会長として仕事がし易い。

- 関東甲信越静の衛生主管部長と各都県医師会長との連絡協議会が開かれ、主題となったのは看護婦対策であった。

- 都医の医道審議会が開かれ、会員に対する東京都の決定事項については処分やむなしという答申をした。都医としては以後も厳正にのぞむ方針。

2. 都医からの伝達事項

- ①第203回(臨時)代議員会結果報告について 後述
- ②東京都衛生局との定例連絡会について

て

平成3年度衛生局主要事業概要。

当医師会関係では、羽村保健相談所（仮称）の新設用地取得予算が計上されている。

③予防接種問題について

イ. MMR

平成3年5月31日厚生省の公衆衛生審議会伝染病予防部会で、MMR接種についての意見がとりまとめられた。資料参照

ロ. インフルエンザ

今年度は、保育・幼稚園児ばかりでなく、小中学生についても、個別接種を行なう区市が多くなる予測。

④中医協実態調査について

中医協の中に診療報酬基本問題小委員会を設置して、診療報酬体系の基本的な問題の論議を進める事が正式決定されたので、都医としても本調査に対して協力する事を決定。調査月は6月、当医師会関係は病院5ヶ所、診療所4ヶ所。

⑤第17回医療経済実態調査回答状況について

日本医師会の行う調査で、その重要性に鑑み都医として協力する事に決定。当医師会は10施設、調査月5月。

3. 協議事項 無し

4. 地区医師会からの報告

①墨田区が行うリハビリ協議会について 墨田区医師会

②都、立川地域防災センターオープンについて 北多摩医師会

③増床問題について 西多摩医師会 都医療計画の30条32項の解釈につき都医へ質問。

④公衆衛生審議会伝染病予防部会の意見について 武蔵野市医師会

(2) 東京都医師会第203回（臨時）代議員会及び東京都医師会第88回（臨時）総会報告 松原副会長

6月20日開催

○福井会長挨拶

難病訪問診療事業を支援する為、都医の中に在宅難病相談事業検討委員会を発足。

○日医代議員補欠選挙、元府中市医師会長小泉監事を都より選出。

○都医師会一般会計収支決算

” 特別会計収支決算

国保講習会事務委託費に関する件、等々承認。

○都医定款改正検討特別委員会設置を承認。

○大学勤務医会費に関する件、承認。

(3) 三多摩地区医師会庶務担当理事連絡会報告 林 理事

6月21日行われ、大腸癌検診費用に格差の出ない様に努力する事、又平成3年度各医師会予算と事業概要について話し合われた。

(4) その他

羽田日医会長の勲一等瑞宝章受賞を祝って、6月21日帝国ホテルで祝賀会が開かれた。 西村会長

2. 報告承認事項

(1) 入会会員について 林 理事 —— 承認 ——

(2) 平成3年度多摩医学会役員推薦について 林 理事 西多摩より以下6名を推薦

西村 邦康
石井 好明
塩沢 永康
大久保憲二
平沼 俊
大河原 周 (敬省略)

—— 承認 ——

3. 協議事項

(1) 青梅藤ヶ丘病院増床について 林 理事 継続検討。

(2) 西多摩医師会納涼会について 進藤理事

7月27日（土）午後6時半、青梅福祉会館に於て、会費5,000円。

資料

乾燥弱毒性麻しんおたふくかぜ風しん混合
ワクチンの接種について（意見）

平成3年5月31日

公衆衛生審議会伝染病予防部会

当部会は、乾燥弱毒性麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン（以下「MMRワクチン」という。）の接種方式等について審議を行い、以下のとおり意見を取りまとめた。

記

1. MMRワクチンについて

MMRワクチンは、1980年代より欧米諸国において導入が始められ、これにより、しばしば重篤な後遺症を伴う麻しん、おたふくかぜ、風しんの制圧に大きな成果をあげている。3種類の単味ワクチンを個々に接種する方式に比べ、1回の接種で済むことから、被接種者の肉体的、経済的及び時間的負担が軽減され、また、接種率の向上も期待されることから、MMRワクチンは、我が国の公衆衛生上、有用な方式であると考えられる。

2. 統一株MMRワクチンについて

MMRワクチンの接種については、平成元年4月から実施しているところであるが、MMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎が疑われる報告があったことから、平成元年12月20日に公衆衛生審議会伝染病予防部会を開催し、保護者からの申し出があった場合に限り、麻しんの定期の予防接種時にMMRワクチンを使用することが適当である旨の意見を提出したところである。

MMRワクチン接種後の後遺症については、公衆衛生審議会予防接種健康被害認定部会において、両側性難聴1件、急性小児片麻痺1件が認定されており、後遺症の発生頻度は50万人に1人程度と考えられる。しかしながら、接種後の無菌性髄膜炎に起因する後遺症の発生については現在まで報告されていない。

また、MMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎の発生頻度については、厚生省のとりまとめによれば平成元年4月から同年10月の間に

数千人に1人とされてきたが、昨年さらに実施した調査によれば、平成元年4月から平成2年10月の間に、MMRワクチンを接種した者のうち無菌性髄膜炎を発症した者の割合は約1,200人に1人と、従来考えられていた頻度よりも高率であることが確認された。

一方、おたふくかぜの自然感染による無菌性髄膜炎の発生頻度は2.4%程度であり、まれに合併症として脳炎を発症すること、また、おたふくかぜの自然感染により数万人に1人が後遺症として難聴を残すこと、さらに、おたふくかぜの自然感染により毎年数人の死亡者がでていいることから、MMRワクチンはおたふくかぜに自然感染した場合と比較して、有用なワクチンであると考えられる。

以上のような状況を勘案し、当部会としては、MMRワクチンの取扱いに関し具体的に以下のとおりとすることが適当であるとの結論に達した。

- (1) 麻しんワクチンの定期接種時には、麻しん単味ワクチンを接種することを原則とし、保護者の希望した場合に限りMMRワクチンを使用すること。また、MMRワクチンの接種にあたっては、保護者の意向の確認を徹底すること。
- (2) 国及び地方公共団体は、医師及び保護者に対し、MMRワクチンの効果及び副反応、特に無菌性髄膜炎の症状、発生頻度等について周知徹底を図ること。
- (3) 医師がMMRワクチンの接種を行う際には、あらかじめ保護者に対し、無菌性髄膜炎の症状、発生頻度等の副反応についての説明を行うこと。

3. 統一株以外のMMRワクチンについて

MMRワクチンについては、現在、統一株以外のMMRワクチンについても医薬品として承認をうけている。今後、無菌性髄膜炎等

の発生状況の調査（下記のモニタリング）を行いつつ、接種医が統一株以外のMMRワクチンも選択して接種しうる体制の整備を図ることが望ましい。

なお、統一株以外のMMRワクチンの取扱いについては、統一株MMRワクチンと同様の事項に留意する必要がある。

また、外国で使用されているMMRワクチンの使用実態等についても、その情報収集に

努めるべきである。

4. モニタリングの実施等について

MMRワクチン接種後の副反応に関する適切な情報を地方公共団体、医師等の関係機関及び保護者に提供するため、MMRワクチンの被接種者数及び副反応発生数等に関し定期的に調査を行い、その把握に努めることが必要である。

MMR ワ ク チ ン

		麻 疹	風 疹	ムンプス	備 考
統 一 株		A I K - C	T o 3 3 6	占部Am9	市 販
自 社 株	阪 大 微 研	C A M	松浦MQ11	占部Am9	認 可 済
	武 田 薬 品	SchwarzFF8	T o 3 3 6	鳥居株	
	北里研究所	A I K - C	高橋KRT	星野株	
	千 葉 血 清	T D 9 7	T C R B 1 9	N K M - 4 6	未 認 可
	化 血 研	—	松葉株	宮原株	単味ワクチン
外 国	M S D	Moraten	RA/27	Jeryl Lynn	
	S K R	Schwarz	RA/27	占部Am9	

理事会報告

— その2

定例理事会 平成3年7月8日
西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 大嶽理事
宮川理事

議題

1. 報告事項

- (1) 多摩がん検診センターの事業運営について 西村会長
- (2) 西多摩ブロック地域福祉会議開催について 西村会長
在宅福祉サービスの総合的展開をめざして、というテーマで、平成3年8月30日、午前10時30分～午後3時まで羽村町コミュニティセンターで開催予定。司会は西村会長が行う。
- (3) 都立青梅看護専門学校長との懇談会報告 松原副会長
- (4) 胃検診委員会報告 松原副会長

(5) 管内三警察長との懇談会報告

高木理事

(6) 公衆衛生部委員会報告

大堀理事

(7) 納涼会について

進藤理事

7月27日（土）午後6：30～8：30
青梅福祉会館

2. 報告承認事項

(1) 入会会員について

松原副会長

— 承認 —

(2) 西多摩ブロック地域福祉会議開催の件

西村会長

上記会議開催に関し、西多摩医師会も後援団体としたい

— 承認 —

3. 協議事項 特になし

次いで、医政連より松原副会長から、第16回参議院選挙に伴う自民党员獲得割当てについて報告があった。

文芸随筆その他諸事百般

我はまた家にこもりて黙々と筆を運ばせ心を鎮むる

終戦後は非とも確かと指標もつかくかくあれと國民の指標を

世の中は静寂なる処尠き如し依然各地で争乱たえず

噴火は続き争乱つづき湾岸戦後も各地に争乱つづき

八重槿 五色に咲けり施肥利きて花傘の如く夏日を飾る

薺茗荷 花白々と薺塞ぐ特異の香り流れて涼し

青葉松虫 啼ける梢に風立ちて宵の夏空 月影明るし

ありしこと、昔語りを綴り居れば我が家の背戸に涼風流る

「銷夏の心境」

小泉新策

#####

青 梅 特 快

米 山 秀 雄

東京駅で電車に乗る。すいている。右前の席にオーム真理教の教祖のような顔をした大男が汚れた背広の間から胸毛をのぞかせ、太鼓腹の下には、真二つに切ったように割れたズボンの間にキウイフルーツの上に「たにし」をちょこんとつけたように、急所をまるまる出している。近年東京のど真中に見物としてはめづらしい。駆けこんで来た青年が彼の隣に掛けたが、あわててすぐ立って行った。次に来た主婦が隣に掛けようとして、あわてて行ってしまった。彼は悠然とフルーツをのぞかせたままである。

発車のベルがなった。彼は急いで出て行ってしまった。隣の家内を見たら知らん顔である。フルーツ君には気がつかなかつたと云う。

人間いやなものはないのが幸せかもしれない。

電車が動き出した。レンガ色の東京駅が消えた頃、40年余も昔、地方で見た抽象画展を思い出していた。抽象画が日本でもはやされ始めた頃だったと思う。会場入口正面に100号くらいの「皴壁」と云う題名の絵があった。壁か岩の「しわ」を描いたものだと思ったが、やがてそれが女性の下腹部を描いた具象画ではないか。あの頃は見なれない物を描けば抽象画と思われたのかも……。

1910年、カンディンスキーが抽象画を意図的に制作したのが抽象画の最初とされているから、日本の地方展に滲透するまでに時間がかかったのだろうか。

電車はお茶の水の聖橋をくぐって駅にすべり込んだ。

我々一般人にしてみれば昔も今も同じで作者が創造した抽象画から作者の意図した概念

を発見する事はなかなか困難である。しかし今日のように多様な価値感の交錯する時代では、抽象か具象かという二者択一の問題は超えて抽象絵画の概念はかつての有力な意義を失っていると思う。

ただ事物観念等から夫々の特性を除いて共通する性質をぬき出して一つ concepts を絵として作り出す作者の苦労は続いていると思う。

ビルの谷間を走っていた電車が屋並を見おろすようになった。中野駅である。

今世紀の芸術の主流の一つにシュルレアリスム（超現実主義）がある。要するに合理主義をきらって想像力の解放を主体としたもので、フロイドの心理学の影響であると云われる。絵画でいえば、奇人ダリの作品を思い出す。

武蔵境駅をすぎると樹木が増えて来る。近頃は抽象画家も具象画家も一緒に審査し、一緒に展覧会をして、異和感はない。

国分寺駅は新しくなった。

一般に具象画は理解しやすいし親しみ易いしかし具象画の中にも一つの新しい概念を盛りこめたら具象画の新駅についてこないだろうか。

立川駅に気づかない内に拝島駅についた青梅快速は乗りかえがなくていい。

美術評論家の絵画や展覧会の批評文は本当に難解な文章が多い。新聞の文芸欄の批評等書いている人等自分だけでなく他人にも解り易くかいたらよいと思う。そこへいくと絵は自分の眼でよくみれば彼等の文章より理解し易いし、抽象画も結構面白い。

横田基地へ米軍機が低空で次第において行く。

大家の絵で一見なんと古くさい、つまらない絵だろうと思うことがある。しかし何回か見なおすと、我々の及ばない心配りと深さと或重さのあることに気づく、絵画の路線には終着駅のないことを思いかえす。

雑草と芝刈り

秋川市 植田 稔

雑草を退治するのに、引田の温厚な先生は火炎放射器まがいの器械を購入された。

それを聞いて、今は亡き会長は色々その弊害を数えあげた。第一に火事になるおそれがある、第二に草を取るには、土に親しむという言葉のように腰をかがめてむしるものだと主張された。

先生はだいたいが保守的で私には、反対することが多かった。

私が多少自慢気にウォッシュレットを近いうちに、入れる計画だと云ったところ「器械の具合をみよう顔を近づけると尻を洗うのはいいが、尻の水で顔を洗うことになる」「物理的に考えても、作用と反作用を知らなさ過ぎる、水圧の分だけ尻から飛び散った水滴は臀部から大腿部そしてズボンを濡らすのは目に見えている」と口の悪い批評であった。

私は痔というものが如何に痛い、一歩あ

るいては飛び上がり、二歩あるいて奥歯を噛みしめ、じっと痛みが遠のくのを待つ辛抱強さは痔主でなければ思いもよらない、まるで地獄にある「おしん」の心境だと話した。広告によると器具の効用は実に抜群で、世の中がパッと明るくなり、幸福になれると出ていた。わたしは今においては幸せになれないと力説した。その説得が効を奏したとも思われないが、その後、私の顔を見て「どうだい、調子は」と云ってニヤリとされていたのは暗黙の理解であったろう。勿論わたしは、その効果の素晴らしさを宣伝し、痔で悩んでいる奴の気が知れないとわざと声を大にしていたから、あるいは既に、先生ご自身、買入れていたのかもしれない。

話しが本題から大きくそれたので元に戻す。芝刈と云えばいかにも広い庭園があるかのようなきこえがよいので、文のテーマにしたが、

実のところ、庭と云っても、猫のひたい程もなく、ねずみのひたいといったところである。たまの法螺だと勘弁してもらいたい。

引田の先生から雑草退治火炎放射器の話をして聞いて、私は喜び勇んだ。そして女房の鼻をあかしてやろうと思ったのである。

「タテの棒を横にもしない」と思っているのは明明白白であった。証拠には二階にいる私に聞こえないと思っているらしいく、「奥さんよ、俺も頑固なところがあるけど、先生の頑固さは俺なんかというもんじゃないよ、特別だよ。すぐ怒るし、奥さんだからもっているようなもんだ。奥さんもそう思うだろう。俺なんか何時も喧嘩している。ところで亭主は芝の手入れはしているかね。」例の一里四方にきこえる声なので否応なく耳に入ってくる。先生が亭主に格下げになり、氣の弱いことを自認している私をやれ頑固だの、怒りっぽいなど云いたい放題である。更に腹立たしいのは、その時のカミさんの答えが「タテの棒…」云々であった。

他人のうちへやってくるなり、亭主に挨拶もなしに、その亭主の悪口を云うのも非常識、してやったりと同調して相槌をうつのも目糞鼻糞ではないか。

ところがである。引田の先生の名前を出したにもかかわらずカミさんの反応は極めて遅かった。「そう」「ああ」とは云っても「はい」とは云わず、口も重かった。

私の三日坊主を見抜いており、今更、性格の突然変異がある筈はないと決め込んでいるようであった。

そうなると、むきになるのが私の悪い癖である。雑草取りは健康によいこと、狭い庭は手入れの効果がてきめんで綺麗になること、然し反応なし。流石に「お前の大嫌いな毛虫、ゲジゲジ、ミミズは一匹もいなくなる、火炎放射器の敵ではない。」ミミズ、ゲジゲジは効果があったらしく重い腰を上げて取り寄せた。しかし結局は使わず仕舞いで、今では物置の奥に埃をかぶっている。理由は火の用心。

話しは七年間スリップして現在に移る。診療も終り、ほっと一息入れて看護婦詰め所でお茶をのんでいた。『電話です。』

「三本抜いてもその後に伸びて来るっていうのか」

「一時的だけど抜けば薄くなるしなあ。」いきのいい看護婦が間髪をいれず云った『せんせえ そんな話しは家へお帰りになって、奥様とゆっくりご相談することですよ』

誤解も甚だしい。うちの看護婦の特徴は気はいいが、私の言い訳に絶対耳をかさない悪い癖を持っている。例の訂正不可能性というやつである。

実は植木屋が来ていて、排水溝をかくすために小さな這松を三本植えてあった。その松が横に伸びすぎて雑草はおろか芝まで不毛にしたというのである。植木屋のいうには這松を三本抜いた後、排水溝の上に蓋をして土をかぶせれば、芝は自然に勞せずして伸び、我が家の庭は雑草なしの芝生におおわれ、芝刈りだけで充分だというのであった。



雑記

同好医会について

山田正哉

西多摩医師会は来年創立80周年を迎える都医師会の中でも大変由緒ある歴史を有する医師会である。現在 200余の会員を有する大世帯の医師会であるが、会員の大多数は戦后当医師会員になられた方々で、医師会の歴史については殆んどご存知ない方ばかりです。

この古い歴史のある西多摩医師会について、私の手元にある古い記録等を繕きながら綴ってゆきたいと思う。

西多摩医師会の源は、明治26年1月14日に開催された「同好医会」に端を発するもので、既に99年を経過する都でも古い医師会である。

明治になり西欧文化が輸入されるにつれて、医学もまた長足な進歩を遂げ、医師の数も増加して来た。当時の東京府知事高崎五六氏は東大教授三宅秀博士に委嘱して、東京医界を組織し医界の統一を他県に先駆けて計画した。その頃の西多摩郡には開業の医師は極く僅かであるばかりか、地勢上お互の交流も思うようにならない時代だった。この時諸般の事情を考慮して、羽村坂本順三（坂本保己氏祖父）、青梅三枝不二太郎（三枝健氏祖父）が発起人となって青梅町及びその近郊在住の同友に連絡をとり、明治26年1月14日に水清き多摩川畔の坂本順三宅に集会を催したが、山田寿男（小生祖父）、横田甫助（福生・故横田寿照氏祖父）、久保田敏明（青梅）、松本賢治（青梅）、井上竹三（青梅）、中村重四郎（吉野村）の8人が参集し、会発足の主旨、組織結成の意義、その他規約等について協議したる処参加者全員の賛同を得て、会名を「同好医会」としてここに第一声を挙げる事が出来た。

翌明治27年1月14日青梅市西分に現在ある坂上旅館（萩森正紀氏夫人生家）に第2回会合を開催した処、その趣旨に賛同して14名が参集し、爾后毎年1回この日を期して開催し医事衛生、業務の件等に関して討議すると共に、

各自の実験説や新薬、時事衛生問題に就いてお互いに研鑽に務めた。世情の種々の変化があったにも不拘1回も休会することもなく、席上論争、不満を唱える者もなく、杯を挙げて礼節を重んじ益々友愛の情けを深くして、会の運営を計って来たと第1回より同好医会に参画され西多摩医師会の発展に尽力された大先輩の故中村重四郎先生が記録している。今ここに明治27年1月14日付の同好医会規約を参考に掲載すると以下のようである。

第1条 本会は同好のもの相会し我学仁並に業務上の談話問答或は研究等をなすものとす

第2条 本会々員は親睦を旨とし第1条の主意を履行するを専らとす

第3条 本会は毎年2回便宜の地に開会する者とす。但し会員多数の請求あるときは臨時会を開くことあるべし。

第4条 本会々員は業務上重大の利害に関することあるときは互いに問答或いは忠告するものとす。

第5条 本会に幹事3名を置き一切のことを整理せしむ。

と規定されている。当時の同好医会の会費は、会合の催徴収されてた模様で、金50銭である。明治27年4月17日の臨時総会の経費をみると、坂上に支払し酒肴、下女2人分は7円19銭と記録されていて、幹事は久保田敏明、山田寿男、岡嶋多橋（青梅）の名が記載されている。

現在こそ医薬分業は当然として考えられているが、同好医会を結成した明治26年1月16日付で当時神奈川県西多摩郡下に開業していた医師に対し、“非医薬分業賛成”の署名運動を起した貴重な記録があり、その回覧文面の全部を以下に掲載する。

今回衆議院議員島田三郎氏発案に係る医薬分業問題を議場に提出せんとせしか一時中止

の処目下同院議員中村彌六氏首唱して該問題をして飽迄貴衆両院に通過せしめんと欲するの熱心に就きては横浜医会交渉委員宮嶋義信、朝山義六、兵藤芳矩三氏より右問題に正反対の非医業分業問題を議場に提出一大運動に決議を以て南多摩久良岐都築三郡等の開業医は悉皆最早己に一致同盟せし上は本郡開業医諸君の賛同を得次第神奈川県医師総代委員を撰定して東京府下同業の同意者と融合して大至急に此問題を議場へ提出切望の旨通告有え候依て諸君の氏名を左記の如く連署致し置き候間諾否御決心の上速に押印有之度此段御勧告通知斯に御坐候 敬具

附たる神奈川県医師総代よりの書状一葉相添へ併呈致し置き候間御一覽被下度候也

明治26年1月16日

久保田敏明

坂本 順三

小林 豫助(青梅)

神奈川県

西多摩郡開業医諸君各位 御中

この回覧に対し小何内村2名、氷川村1名、三田村1名、吉野村1名、三っ星村1名、戸倉村1名、五日市町3名、大久野村1名、増子村1名、菅生村1名、東秋留村1名、西秋留村1名、箱根ヶ崎村3名、福生村2名、西多摩村1名、調布村1名、成木村1名、青梅町8名計31名が押印している。明治中期に既に医業分業問題があったことは非常に珍しい記録ではないだろうか。

このように同好医会は西多摩医師会の歴史の中では重要な位置を占めている。

現在医師会館の日本間の欄間に1枚の写真が掲げられているが、会員の大半は何の写真かご存知ないと思う。この写真は昭和7年の同好医会40周年記念の際坂上旅館の庭で撮ったもので、坂本保己、横田卓史及び稲垣壮太郎、西谷歳美、笹本隆夫、百瀬眞一郎先生方の祖父、大河原周、福田佐、進藤淳、平岡克彦先生方及び小生の父等が写っているが、誰れが誰れと関係するか恐らく会員の方々は殆どお分りにならないと思うが、写真の先生方は全部故人になられていますので、医師会に

としては貴重な宝の一つである。

同好医会も第2次世界大戦で一次中止されたが会員の中から歴史ある同好医会の復活の話が持ち上って、昭和27年から復活された。西多摩医師会では、先人の偉業を偲んで相互扶助と融和の信念から同好医会の発足日を記念して、毎年新年会を坂上旅館で開催するのが恒例になっていたが、時には他の場所魚久等で開催したこともある。

最近のように新年会の形式と開催日を変更したのは、高水会長就任2年目頃に会員相互の融合ばかりでなく会員家族間の面識、融合も必要だとして従来の形式を打破し坂上旅館から他の場所に変更して数回開催したが、これにも問題があって何時しか中止された。現在の様な市町村長、その方々を招聘した新年会は瀬戸岡会長からで、これも次第に会員の出席が少なくなり恰も役員との懇談会の様な形式化して来た。市町村長との会合は、高水会長時代は新年会と別にして、行政と医師会との意志疎通の場として設けてきた。

現在医師会入会のメリット、デメリットの問題があるかも知れぬが、昔程会員の医師会に対する関心度が薄いように感ずるのは私1人だけだとは思はない。自分の地域の先生方とのコミュニケーションは深い、他地区の先生方とのコミュニケーションは殆んどないように思う。私も時々医師会の会合に出席すると大半の先生方を知らないしまた先方も何処の馬の骨かと云うような顔をしている。また先輩の先生方に対して挨拶もされていない。亡き進藤利定先生が或る会合に於いて、今の若い人達には礼節がないと嘆けられたことがある。これは医師会に対する関心度に関係すると思うが、これでは医師会の発展に大きな問題点だと思うがどう皆は考えるのか。西多摩医師会の基礎を築れた多くの大先輩の先生方が、何故に同好医会を結成したのかも一度考へてみたい。

1年1回誰れに遠慮なく出席して胸襟を開き、先輩からは人生その他の教を伝授され、同僚とは忌憚のない議論を交せるような会合を持つことが先人の残してくれた同好医会の「和と友愛」の信念に合うことと思う。

かった。更に左折して帰院することとした。虎の門へ向って行進中左側の丘上「幸楽」のある地帯には多数のカーキ色の行動して居るのを認めたが、此のカーキ色の群団は何処所属して居るのかなあ、対決を迫って居る部隊かなあ、などなど想像しつつ帰院して3時頃院長に報告して解散した。

我々はそのあとラジオ放送を耳にした。速かに帰せよ、処罰しないからとの意味の報道を耳にする度に一体何があったのか。何が叛乱軍行動をしたのか。命令とは、統帥権とはなど医局で色々論議されて成り行きについて無関心では居られなかった。この反乱行動の真相はわからせぬまゝ満州へ移駐していつか民間の噂は消えて行った。私は支那事変頭初に軍医予備員召集で習志野陸軍病院に二ヶ月教育を受け、再召集が翌十三年八月祭部隊、軍縮で廃止となりそれにかわって飛行隊を新規編集した第十五師団が復活したのである。部隊

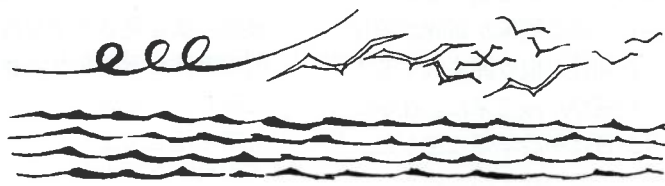
編成は2・26事件で満州へ移駐降等懲罰された近歩三を中心とする部隊へ補充兵を召集して加えた部隊であった。十四年秋三河作戦の救護班として私が出動した時、野中中尉が居た。2・26事件で警視庁占領の指揮を執って居たあの大尉が中尉になって居た。作戦中民家に合宿し一夜話した。私の中学生冬期大演習で寒気で鉄が縮少して突撃に着剣出来なかった報告も又満州事変に入って「スピンドル油」や統剣が氷結して使用不能となり銃剣が装着出来ぬのみが軍力も僅かな動作で氷で折れ飛んで役にたたぬこと語った。又獨欧に学んだ新兵器主力説の「永田鉄山」に天佑を主張する「相沢中佐」が鉄山を抜刀切断した話や、既にこの夏敗戦した「ノモンハン事件」の戦車戦の情報を、そして今次戦の終末を憂いて居たことを思ひ出す。初めて「2・26事件」とは新兵器派と神風天佑派（皇道派）との衝突とわかった。



ブロックだより

羽村町医師会

羽村町医師会は、さる7月13日（土）久振りにバスツアーを行った。行き先は浅草の新名物、アサヒビール吾妻橋ビル、その21階にある「アラスカ」でフランス料理を楽しんだ後、予定では階下のビアホール「フラムドル」で2次会のことだったが、土曜日のためか、すっかりしない梅雨空にもかかわらず女性群に席は占領され、急遽予定変更して、夜の浅草見物となり、9時には一人の落後者もなく、無事かつ健善にして一路羽村の帰途についたのであった。



お 知 ら せ

9月（8月診療分）の
保険請求書類提出日
9月9日（月）
— 正午迄です。 —

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談下さい。

- ◎ 相 談 日 8月は14日（水）
 9月は11日（水）の予定です。
 - ◎ 場 所 西多摩医師会館和室
 - ◎ 内 容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、
 刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎ 相 談 料 無料（但し相談を超える場合は別途）
 - ◎ 申 込 方 法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。



「ニッコウキスゲ」

山 田 正 哉

この花はユリ科の多年草で、7月ころから茎の先にオレンジイエローの花を咲せ、朝開いて夕方しばむ一日花だが、大群落を作るので、花の盛りにはみごとな景観を呈します。

この花の名所は、尾瀬をはじめとして日光霧降高原、霧ヶ峰などで、山の湿った草原に群生することが多い。7月の或る日夜明けと共に車で長野県の霧ヶ峰高原に行き、ニッコウキスゲの花で黄色に染まっているその景観と展望のすばらしさの中で撮った私の花写真の中の思い出の1枚である。



訃 報

桂 木 ナ ヨ 様 95才

五日市町伊奈1041

増戸診療所

桂 木 真 先生 (御母堂)

去る7月5日「老衰」のため逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

会誌編集委員長に真鍋勉先生が就任して1年が経過し、今月号で14号目の発刊となりました。真鍋先生の人徳か、委員会のメンバー、お互いの気心も知れ、毎月楽しい、有意義な編集委員会となっています。委員長の頭初の基本方針を思い返しますと、「会報は医師会の顔、執行部と会員とのパイプの役割」を概念とした上で、(1)表紙は会員の先生からいただき、カラーのものはカラーで載せる、(2)学術的論文を掲載する、(3)多才な先生が多いので、文芸随筆を幅広く公募し充実させる、(4)三公立病院からのフレッシュなニュースを提供していただく、ということでした。編集委員の1人としてこの1年を振り返りますと、色々反省点はありますが、会員の諸先生方の御協力をいただいたおかげで、いずれの項目も順調にこなしてきたのではないかと感じております。この間、真鍋編集委員長は我々には解らぬ御苦勞をなさった様です。先般の編集会議において、今までの経験を生かし、これからはもっと魅力のある、会員の先生方に役立ち喜ばれる、会員の先生方にもっと参加していただける会報を作っていこう、と皆で誓い合いました。今後も今まで以上に御指導、御協力、心よりお願い申し上げます。

(小机 記)

平成3年8月1日発行

発行所 (社) 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103

TEL (0428)23-2171(代)

会報編集委員 真鍋 勉

石井好明 小机敏昭 小林杏一

田代 洋 玉木一弘 堀田洋夫

道又正達 百瀬真一郎 渡辺良友

自然のめぐみを最先端の技術で活かす——ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目



ツムラは、ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目により、高齢化社会の深まりつつある現実の治療に貢献しつつ、漢方製剤の科学的な実証を通じて、21世紀に至る長寿社会の治療手段としての役割をはたしていきたいと願っております。

 株式会社 **ツムラ**
東京都千代田区二番町12-7 102

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のパイオニア
保健科学研究所

本社 千240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)
仙台支社 千983 仙台市宮城野区扇町1-3-5 TEL/022-236-9345(大代表)